

事項	衛星画像データを利用した「青天の霹靂」の収量性の推定		
ねらい	「青天の霹靂」の目標玄米重を確保するためには、これに見合った稲体の大きさが必要である。そこで、収穫時期の「青天の霹靂」の稲体の大きさ（全重）を衛星画像から推定する方法を明らかにしたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 収穫時期における玄米重と稲の全重には密接な関係がある（図1）。</p> <p>2 登熟期に撮影した衛星画像の近赤外波長の反射率は、稲の全重が重いほど、高まる傾向がある（図2）。</p> <p>3 調査地点で近赤外波長における反射率と稲の全重との関係式を求め（図2）、これを撮影地域全体に適用することで、稲の全重を推定したマップ（収量性マップ）が作成できる（図3）。</p>		
期待される効果	「青天の霹靂」の目標収量の確保と品質の安定に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 衛星撮影の時期は天候に左右される。撮影時に雲があった地域は推定できない。</p> <p>2 衛星撮影と並行して、現地40地点程度で収量調査（全重、玄米重）が必要である。</p> <p>3 本成果は、平成27年9月16日に撮影した衛星画像を利用した結果である。撮影時期によっては、推定精度に影響する可能性がある。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	農林総合研究所 生産環境部（0172-52-4391）	対象地域	青天の霹靂 作付対象地域
発表文献等	<p>平成27年度 試験成績概要集（農林総合研究所）</p> <p>本研究の一部は、総合科学技術・イノベーション会議のSIP「次世代農林水産業創造技術」（管理法人：略称「生研センター」）によって実施された。</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

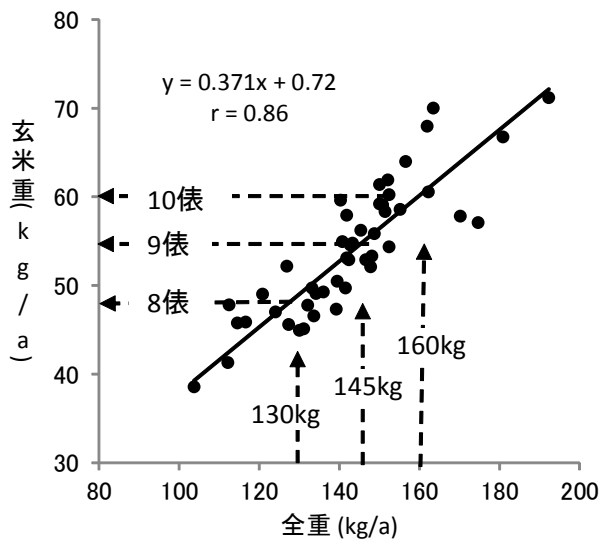


図1 収穫時における稲体の全重と玄米重の関係 (平成27年 青森農林総研)

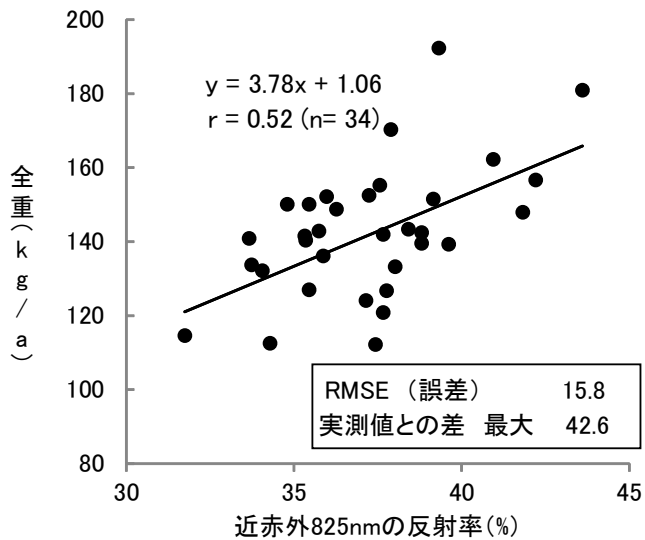


図2 近赤外波長の反射率と稲体の全重の関係 (平成27年 青森農林総研)

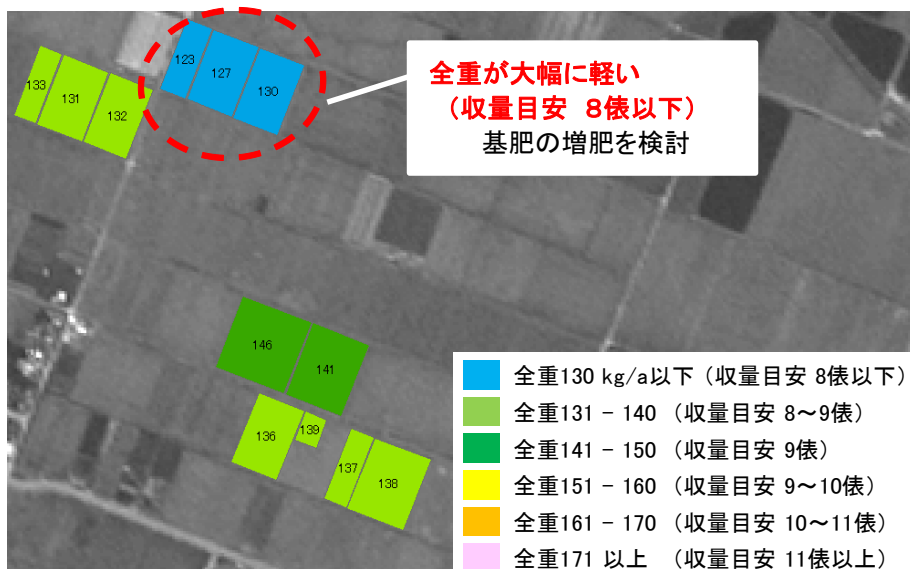


図3 収量性マップ (平成27年 青森農林総研)  
(注)衛星撮影日：平成27年9月16日 (SPOT 6号)